

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 4 月 16 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02722

研究課題名(和文)チベット・ビルマ語族の繋聯言語の記述とその古態析出に関する国際共同調査研究

研究課題名(英文)International Field Linguistic Survey of the Tibeto-Burman Link-languages

研究代表者

長野 泰彦 (NAGANO, YASUHIKO)

国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授

研究者番号：50142013

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,500,000円

研究成果の概要(和文)：チベット・ビルマ(TB)語族には複数の下位言語群の特徴を兼ね備え、系統関係の橋渡し役を演じる言語(以下、繋聯言語)がある。現代の繋聯言語は典型的に多様だが、同時に古い特徴「古態」を保っていて、同語族の歴史を探究する上で不可欠である。本計画ではチベット・ヒマラヤ語群、羌・ギャロン語群、チンポー語群に属する延べ44の急速に危機言語化しつつある繋聯言語を現地調査によって精確に記述し、言語動態と基層関係を考慮しつつ、各言語群の古層とTB祖語形式を厳密に再構し、TB諸語の新たな系統(歴史)関係を提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1) 内陸アジアの言語史を検討する上で不可欠のチベット・ビルマ祖語の姿を、チベット・ヒマラヤ語群、羌・ギャロン語群、チンポー語群に観察しうる繋聯言語に残る古態の記述分析し、その動態と言語基層を加味して再構成することが可能となった。このことにより、より広い枠組みにおける同言語グループの位置づけを明確にできた。(2) チベット・ビルマ祖語形式の精緻化により、言語のみならず、民族の移動の歴史を模索する上での手掛かりが得られた。(3) 当プロジェクトを現地の研究者との協働を通じて、現地研究者や若手研究者の育成に貢献した。

研究成果の概要(英文)：Some Tibeto-Burman (TB) languages share several features found in different sub-groups and serve to connect languages with genetic relations. These languages are called 'link languages'. While existing link languages are typologically diverse, they still retain ancient features and ancient forms which make them indispensable for researching the history of TB languages. In this project, we aimed to produce accurate descriptions of 44 rapidly endangered link languages of the Tibeto-Himalayan, Qiang-rGyalrong and Jingpho sub-groups based on data to be collected during fieldwork and to identify and analyze their proto-forms while paying attention to their linguistic dynamics and substratum relations. In so doing, we could precisely reconstruct the archaic stratum of each sub-group and Proto-TB form, thereby establishing new genetic relations among TB languages.

研究分野：言語学

キーワード：チベット・ビルマ チンポー ヒマラヤ シャンシュン語 記述言語学 現地調査 羌 言語基層

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

チベット・ビルマ (TB) 語族には複数の下位言語群の特徴を兼ね備え、系統関係の橋渡し役を演じる言語 (以下、繫聯言語) がある。現代の繫聯言語は類型的に多様だが、同時に古い特徴「古態」を保っていて、同語族の歴史を探究する上で不可欠である。

Wolfenden (1929) *Outlines of Tibeto-Burman Linguistic Morphology* 以降 1 語族として確立され、Benedict (1972) *Sino-Tibetan* 及び Matisoff (2003) *Handbook of Proto-Tibeto-Burman* を経て、TB 祖語の音形式は一定程度明確になった。しかし、それはあくまでも主要な言語の分析に基づいた系統関係の大枠が見えてきたに過ぎず、記述の不十分な言語や未解読の古文献言語がまだ多数残っている。また、下位言語群の祖語はまだ再構されておらず、TB 祖語段階での形態統辞法の再構成は、その試みは散見されるものの、まとまった成果は少ない。

その原因として、下位言語群の文法的特徴を兼ね備えた繫聯言語グループ、特にチベット・ヒマラヤ語群 (分けても西ヒマラヤ諸語と西ブータン諸語)、羌・ギャロン [嘉戎] 語群、チンポー [景頗] 語群、の記述がコーパスを生成できるほどには組織的に行われなかったこと、形態統辞法に関する包括的なデータベースが存在しないこと、従前の歴史言語学での最も洗練された方法は「比較」であり、TB においてもその重要性は変わらないが、民族の接触と移動が頻繁に起きた TB 諸語にあっては「言語基層」という作業概念を導入することが必須である。繫聯言語が実は古態をも保持しているのはまさにこの言語基層と密接に関連しているのだが、それに関する方法的検討が遅れていること、などが挙げられよう。さらに、漢化及びヒンディー化が近年急速に進んでいることにより、繫聯言語を担う人々の社会そのものが崩壊の瀬戸際にあり、危機言語に近づきつつある現状がある。

2. 研究の目的

本研究はそのような状況を改善するため、下位言語群の文法的特徴を兼ね備えた繫聯言語を、チベット・ヒマラヤ語群 (分けても西ヒマラヤ諸語と西ブータン諸語)、羌・ギャロン [嘉戎] 語群、チンポー [景頗] 語群に求め、それらの精緻な記述資料を整えることを第一義的な目的とした。それはこれらの語群に含まれる繫聯言語が漢化とヒンディー化の最も強く曝されており、消滅の危機に瀕した言語になりつつあるからである。

次に、それらの精緻な記述資料をもとに、TB 諸語の下位分類を整理し、それぞれの下位言語群の古層を語彙レベルと形態統辞法レベルにおいて再構し、TB 祖語のより精密な再構成の基礎とすることを目指した。これらの成果を論考として公表するとともに、それらのデータをカリフォルニア大学パークレイ校の *Sino-Tibetan Etymological Dictionary and Thesaurus* とリンクさせ、研究者の共同利用に資することを目標とした。

また、繫聯言語の持つ「古態」に注目し、言語類型論で重要な能格性、代名詞化、適用態、判断転換態などが TB 祖語の統語法との関連においてどのような意味を保っているかを分析する。そこから抽出される知見と、統計科学と計量言語学に基づいて高次化された曖昧検索プログラムを統合的に運用して、未解読言語であるシャンシュン語の解読に道筋をつけることも重要な目的とした。

3. 研究の方法

本研究計画の方法は全体的に見て、繫聯言語の集中的な記述調査と下位言語群の祖語再構、語彙・文法データベースの整備・国際的連携と TB 祖語の精緻化、繫聯言語の持つ古態の析出、「接触・基層」「繫聯・古態」の相関関係に関する理論的研究、シャンシュン語の解読、

の5つの柱からなる。

基本的な研究方法は現地調査に基づく記述分析である。International Conference of the Sino-Tibetan Languages and Linguistics（毎年開催）、International Association for Tibetan Studies（3年毎に開催）などでの議論を通じ、繋聯言語研究と古態性分析、「接触・基層」という作業概念の方法論的意味を問うためには、フィールドワークに立脚した精緻な記述が不可欠であることが指摘されてきたからである。このことを通じて、下位言語群の祖語再構とTB祖語の精緻化を図る。

これらの分析結果を近年長足の進歩を遂げつつある言語類型論と突合し、広く理論言語学上の一般性を持たせる点に注力する。

研究者やデータベースのネットワークの充実させるため、STEDTとの連携を中心とした情報共有を促進させる。

未解読言語であるシャンシュン語解読のため、従前蓄積してきた文献学的成果を統計科学と計量言語学に基づいて高次化されたプログラムを統合的に運用する。

4. 研究成果

各研究者は当初定めた分担に従い、専門とする繋聯言語の集中的な現地での記述調査を中国・南アジア・東南アジア及び欧州で行い、基礎語彙と基本的な文法を整備した。語彙データに関しては、既にSTEDTとの情報共有を完了した。

繋聯言語の持つ古態の析出に関しては、特に言語類型論上重要な事項に照らして、祖語段階に遡りうる事象の抽出を行った。特に、近年注目されている能格性、代名詞化、適用態、判断転換態などがTB祖語の統語法との関連において、繋聯言語に保たれていると考えるべきか、逆に祖語段階には観察されず、後に各言語で発達させてきたと考えるべきかを個別に検討を加えた。

上記2項については、各研究者の分析結果を国立民族学博物館のシリーズ *Senri Ethnological Reports* に上梓するための編集作業が進行中である。

未解読言語であるシャンシュン語解読については、従前蓄積してきた文献学的成果を統計科学と計量言語学に基づいて高次化されたプログラムによって処理し、動詞と助辞の振る舞いを中心とした基本的な統辞法を10種特定することができた。文法の大まかなアウトラインは再建できたが、語彙の意味の特定が進展していないため、文法記述という点では道半ばと言わざるを得ない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 長野泰彦・武内紹人	4. 巻 2
2. 論文標題 日本象雄語研究概況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青藏高原の古代文明	6. 最初と最後の頁 347-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 長野泰彦	4. 巻 -
2. 論文標題 嘉戎語莫拉方言の使役表現	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シナ＝チベット系諸言語の文法現象 2 使役の諸相	6. 最初と最後の頁 83-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木博之	4. 巻 -
2. 論文標題 カムチベット語梭坡方言における使役表現と構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シナ＝チベット系諸言語の文法現象 2 使役の諸相	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林範彦	4. 巻 -
2. 論文標題 チノ語悠楽方言の使役	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シナ＝チベット系諸言語の文法現象 2 使役の諸相	6. 最初と最後の頁 163-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋慶治	4. 巻 -
2. 論文標題 キナウル語の使役表現	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シナ=チベット系諸言語の文法現象 2 使役の諸相	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林範彦・高翔	4. 巻 -
2. 論文標題 中国雲南省阿克語音系簡介	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 39-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林範彦	4. 巻 39
2. 論文標題 On the Buyuan Jino noun phrase structure	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林範彦	4. 巻 68
2. 論文標題 A Sketch of the Buyuan Jino case-marking system	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 181-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木博之	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 理塘県及其周辺の藏族語言概況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 民族学刊	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木博之	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 カムチベット語茫康・江仲方言の方言特徴	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ニダバ	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki	4. 巻 16-2
2. 論文標題 King's pig: A story in Lhagang Tibetan with a grammatical analysis in a narrative mode	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Himalayan Linguistics	6. 最初と最後の頁 129-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金明哲	4. 巻 66 - 2
2. 論文標題 階層的クラスター分析結果にスコアリングを導入したテキストマイニング	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 警察科学研究所報告	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi Tsuguhito	4. 巻 79-3
2. 論文標題 Review of "Tibeto-Mongolica Revisited"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Beulletin of the School of Orietal and African Studies	6. 最初と最後の頁 321-346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki & Sonam Wangmo	4. 巻 1
2. 論文標題 Introduction to Tibetan's languages of Thamkhas Hamlet, Lhagang Town, Dartsendo.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 6th Beijing International Seminar on Tibetan Studies	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鈴木博之 & 四郎翁母	4. 巻 9
2. 論文標題 カムチベット語塔公方言による翻案物語『裸麦の種子の由来』――訳注と語りの特徴	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語記述研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 W. Zaitso & M. Jin (金明哲)	4. 巻 18-1
2. 論文標題 Stylometric analysis for case linkage of Japanese communications from criminals	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 International Journal of Police Science & Management	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi Tsuguhito & Maho Iuchi	4. 巻 4
2. 論文標題 Varieties of Tibetan texts from Khara-khoto and Etsin-gol	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Indian and Tibetan Studies	6. 最初と最後の頁 321-346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 林範彦
2. 発表標題 Case-marking system in Menglun Akeu
3. 学会等名 26th Annual Meeting of International Association for Chinese Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林範彦
2. 発表標題 Semantic change and grammaticalization of the verb 'to get/acquire' in Youle Jino
3. 学会等名 20th International Congress of Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋慶治
2. 発表標題 Non-finite forms of Kinnauri verbs
3. 学会等名 51st International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jin Minzhe & Sun Hao
2. 発表標題 Collaborative authorship visualization of Yasunari Kawabata's novel
3. 学会等名 Culture and Computing (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金明哲 & 黄善玉
2. 発表標題 文型を特徴量とした文章の著者識別
3. 学会等名 45回日本行動計量学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林範彦
2. 発表標題 The Two Lolopho Dialects in Laos and China
3. 学会等名 48th International Conference on SinOTibetan Languages and Linguistics (Guangzhou, China) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 武内紹人
2. 発表標題 Formation of the Tibetan Civilization
3. 学会等名 13th Seminar of the International Association of tibetan Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鈴木博之 & 四郎翁母
2. 発表標題 康定塔鎮塔格村的藏族語言
3. 学会等名 北京藏学研討会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Suzuki Hiroyuki
2. 発表標題 Typological description of existential verbs and expressions in Tibetic languages spoken in the eastern Tibetosphere
3. 学会等名 4th Workshp on Sino-Tibetan Languages of Southwest China (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Suzuki Hiroyuki & Tashi Nyima
2. 発表標題 'Bo skad, a newly recognised non-Tibetic variety spoken in mDzo sgang, TAR
3. 学会等名 4th Workshp on Sino-Tibetan Languages of Southwest China (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Suzuki Hiroyuki & Sonam Wangmo
2. 発表標題 Migration history of Amdo-speaking pastoralists in Lhagang
3. 学会等名 2nd International Workshop of the Amdo Research Network (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金明哲 & 尾城奈緒子
2. 発表標題 文体の計量的分析
3. 学会等名 計量国語学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金明哲 & 入江さやか & 李鐘贊 & 余語真夫
2. 発表標題 ネットワーク分析による自由想起された感情語の連関
3. 学会等名 計量国語学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金明哲 & 入江さやか & 李鐘贊 & 余語真夫
2. 発表標題 感情語想起の構造
3. 学会等名 行動計量学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金明哲 & 入江さやか
2. 発表標題 方言録音文字化資料から抽出したBigramによる各地方言分類の試み
3. 学会等名 行動計量学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金明哲 & 井口慎也
2. 発表標題 単旋律のデータ化と計量的分析についての研究
3. 学会等名 計算機統計学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 長野泰彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 475
3. 書名 嘉戎語文法研究	

1. 著者名 金明哲	4. 発行年 2017年
2. 出版社 森北出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 Rによるデータサイエンス	

1. 著者名 金明哲	4. 発行年 2016年
2. 出版社 共立出版	5. 総ページ数 408
3. 書名 定性的データ分析	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武内 紹人 (Takeuchi Tsuguhito) (10171612)	神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授 (24501)	
研究分担者	鈴木 博之 (Suzuki Hiroyuki) (10593006)	国立民族学博物館・人類基礎理論研究部・外来研究員 (64401)	
研究分担者	高橋 慶治 (Takahashi Yoshiharu) (20252405)	愛知県立大学・外国語学部・教授 (23901)	
研究分担者	林 範彦 (Hayashi Norihiko) (40453146)	神戸市外国語大学・外国語学部・教授 (24501)	
研究分担者	金 明哲 (Jin Minzuo) (60275469)	同志社大学・文化情報学部・教授 (34310)	
研究分担者	池田 巧 (Ikeda Takumi) (90259250)	京都大学・人文科学研究所・教授 (14301)	
研究協力者	立川 武蔵 (Tachikawa Musashi) (00022369)	国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授 (64401)	
研究協力者	津曲 真一 (Tsumagari Shinichi) (20615033)	大東文化大学・文学部・准教授 (32636)	